







# 2026年3月期 決算説明資料

2026年5月12日

上場市場：東証スタンダード市場  
証券コード：9083



-  2026年3月期 決算概要
-  2027年3月期 業績予想
-  株主還元
-  資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応（アップデート）



# 2026年3月期 決算概要

2026年3月期は、主要事業である自動車運送で一般路線バスの運賃改定や、大阪・関西万博などのイベントに伴う需要を捉えたことで、売上高・営業利益とも増加し、前年同期比で増収（売上高 +5.0%）・増益（営業利益 +20.9%、当期純利益 +27.8%）となった。

### 自動車運送 (乗合バス事業)

- ・ 路線バスは、中距離線の増便や4月にオープンした「GLION ARENA KOBE」のシャトル輸送などにより、輸送人員が増加。
- ・ 高速バスは、大阪・関西万博へのアクセスバス「EXPO号」が好評であったことや、既存路線の増便・復便などにより、輸送人員が増加。
- ・ 2024年10月実施の一般路線バス運賃改定が寄与。

### 不動産

- ・ 賃貸は、2025年1月に竣工した物件の増加があったものの、大型商業施設の改装に伴う一時解約などにより、賃貸料収入が減少。
- ・ 建設は、大規模な新築工事の受注などにより、売上が増加。

### 旅行貸切

- ・ 旅行は、大阪・関西万博ツアーやチャータークルーズなどの催行により、取扱高・集客数ともに増加。
- ・ 貸切バスは、大阪・関西万博シャトルバスの受注や日車収入の増加により、運送収入が増加。

(百万円)	2026年3月期 実績	2025年3月期 実績	前年同期比		2026/3期 業績予想 (2025/11/6公表)	
			増減額	増減率	予想値	増減額
売上高	<b>55,580</b>	52,954	+2,626	+5.0%	55,700	△120
営業利益	※1 <b>4,199</b>	3,474	+724	+20.9%	3,920	+279
経常利益	※1 <b>4,434</b>	3,729	+705	+18.9%	4,090	+344
売上高経常利益率	<b>8.0%</b>	7.0%	+1.0pt	—	7.3%	+0.7pt
親会社株主に帰属する 当期純利益	<b>3,158</b>	2,471	+686	+27.8%	2,710	+448
1株当たり当期純利益	<b>261.64円 (523.27円)</b>	※2 204.95円 (409.89円)	+56.69円 (+113.37円)	+27.7%	224.72円	+36.92円

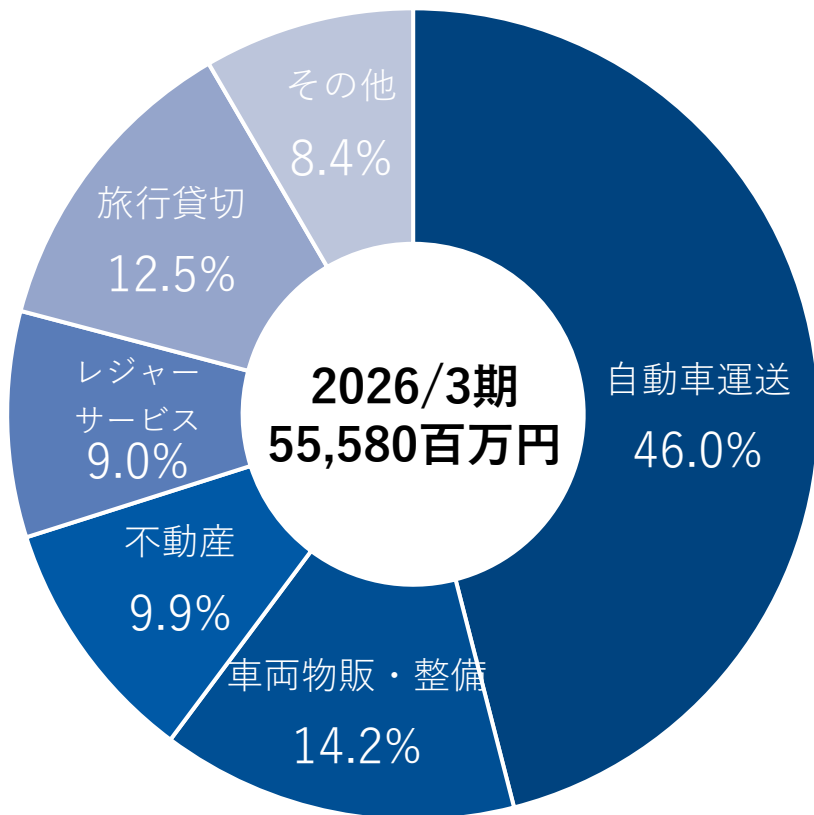
※1当期より有形固定資産「車両」の減価償却方法を、定率法から定額法に変更したことと、耐用年数を変更したことで、各項目の利益が従来の方法・年数と比較して797百万円増加。

※22025年10月1日を効力発生日として、普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行ったため、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して算定。（ ）内は株式分割前の数値を表示。

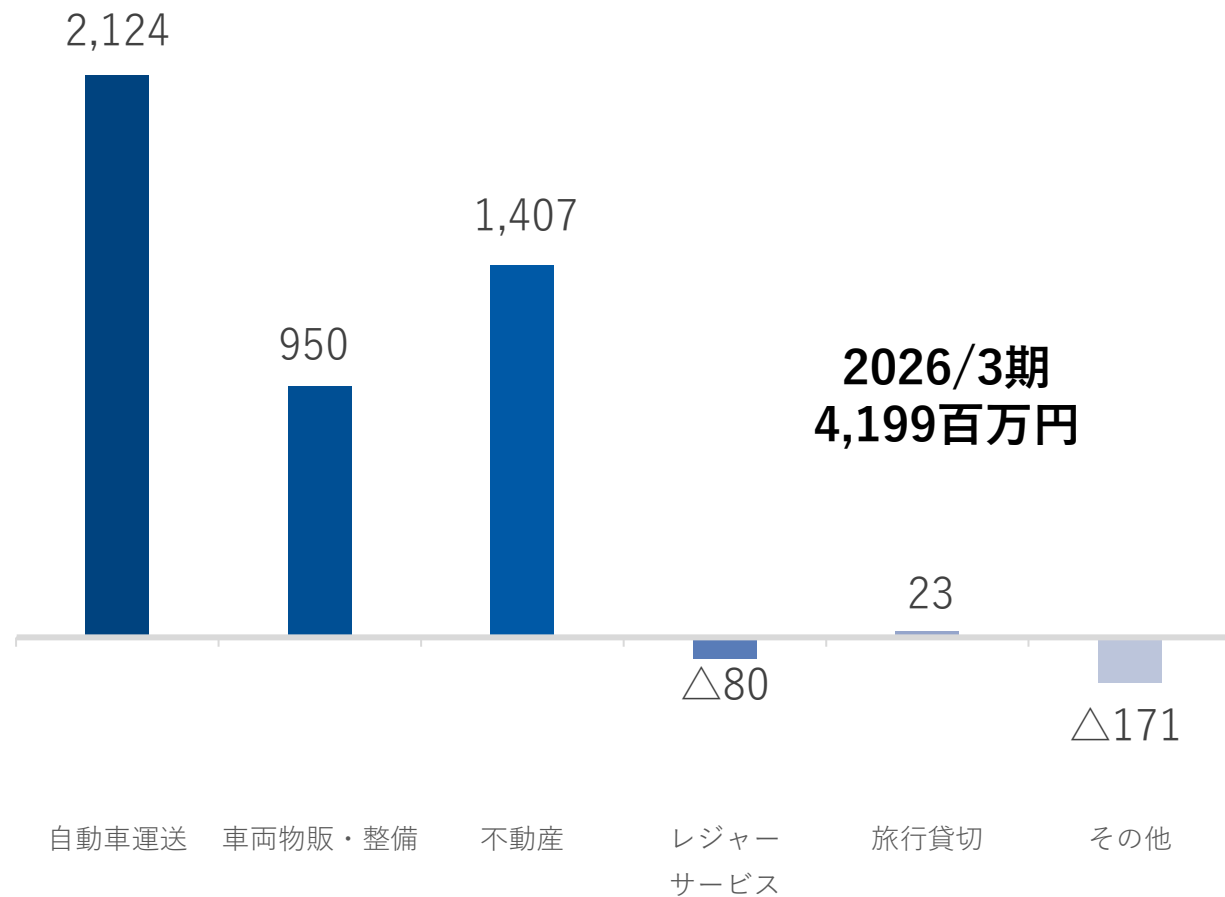
# 連結業績（セグメント別）

(百万円)	2026年3月期 実績	2025年3月期 実績	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	<b>55,580</b>	<b>52,954</b>	+2,626	+5.0%
自動車運送	25,590	23,924	+1,666	+7.0%
車両物販・整備	7,899	7,626	+273	+3.6%
不動産	5,520	5,627	△107	△1.9%
レジャーサービス	5,022	4,540	+482	+10.6%
旅行貸切	6,970	6,535	+435	+6.7%
その他	4,575	4,699	△123	△2.6%
営業利益	<b>4,199</b>	<b>3,474</b>	+724	+20.9%
自動車運送	2,124	1,423	+700	+49.2%
車両物販・整備	950	875	+75	+8.6%
不動産	1,407	1,430	△23	△1.6%
レジャーサービス	△80	△44	△36	—
旅行貸切	23	△68	+91	—
その他	△171	△102	△69	—
（セグメント間取引消去）	△53	△40	△13	—

売上高構成比（単位：％）



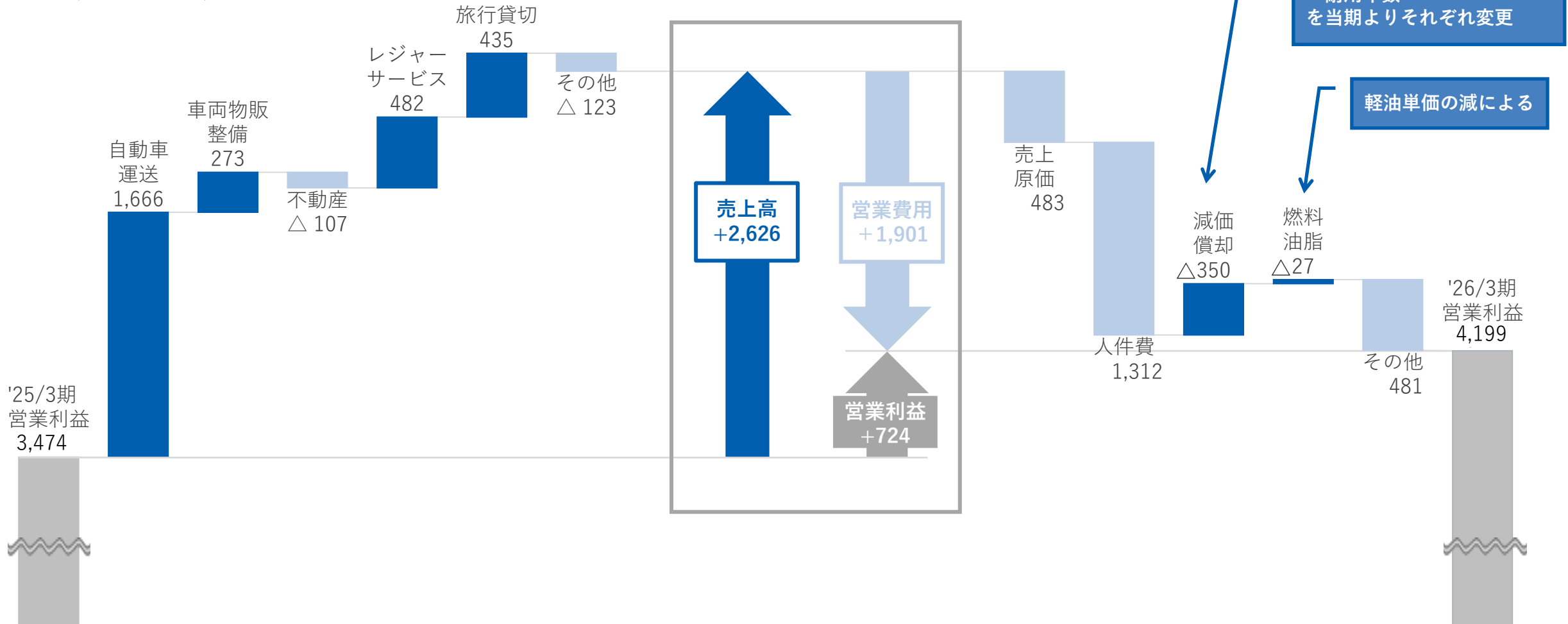
営業利益（単位：百万円）



※セグメント間取引消去額（△53百万円）はグラフに含まれていない

# 営業利益 増減要因

(単位：百万円)

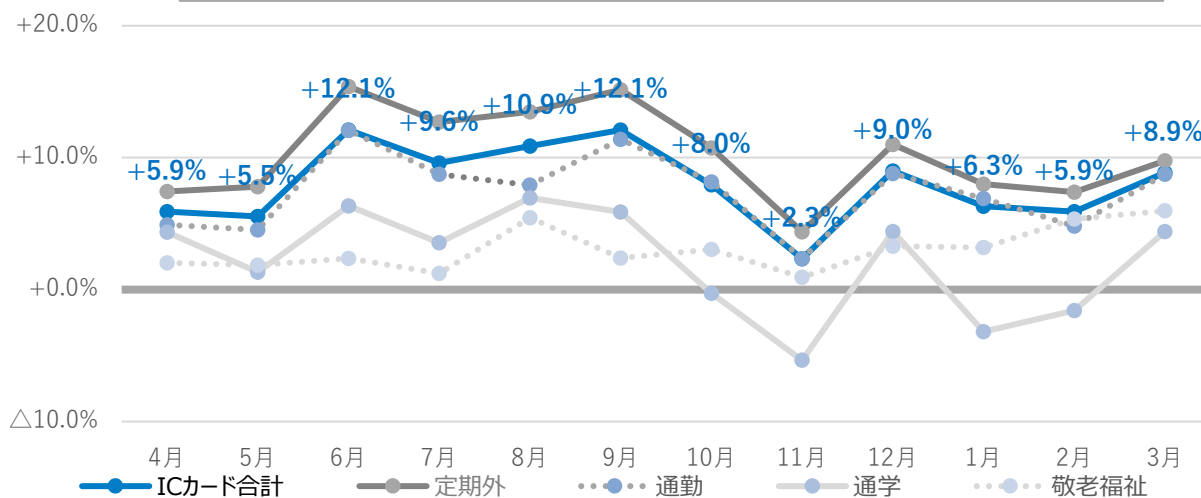


路線バスでは、2024年10月の運賃改定、通勤・通学利用者の増加などにより増収

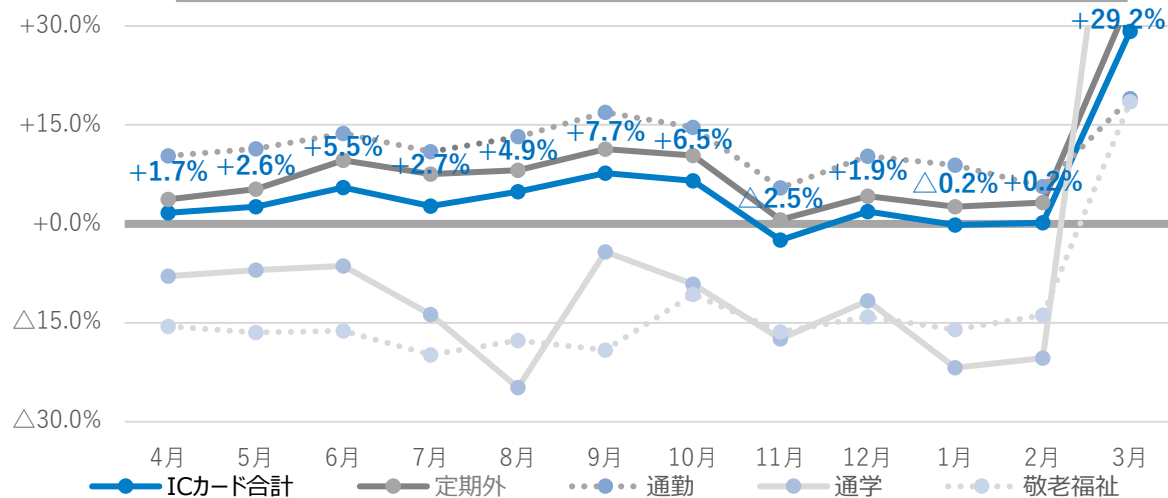
4月にオープンした「GLION ARENA KOBE」に対応したバス停の新設やイベント開催時の臨時運行により需要を獲得

(百万円)	2026/3期			2025/3期			前年同期比	
	上期	下期	計	上期	下期	計	増減額	増減率
売上高	11,658	13,932	25,590	10,587	13,337	23,924	+1,666	+7.0
営業利益	238	1,885	2,124	△302	1,726	1,423	+700	+49.2

※ICカード利用人員対比  
【対前期('25/3期)】



※ICカード利用人員対比  
【対コロナ前('20/3期)】



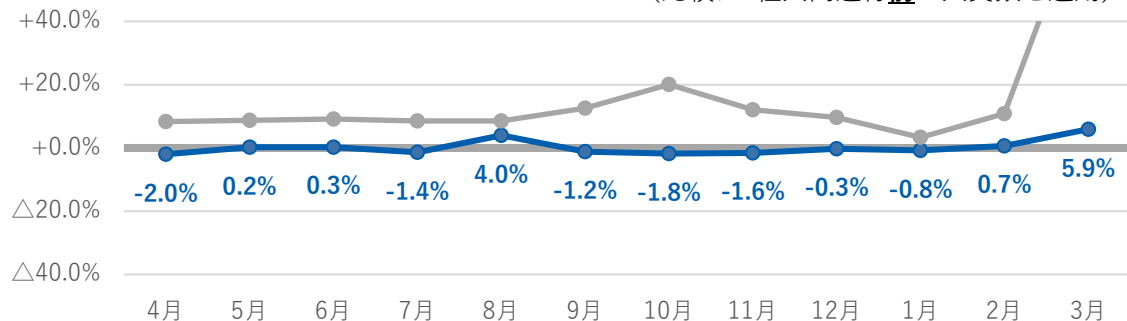
■ 高速バスでは、大阪・関西万博へのアクセスバス「EXPO号」は、期間中約1万便の運行で52万人以上が利用し、大幅な増収に貢献（利用者数は前頁の「ICカード利用人員対比」に反映）

■ 高知線の増便、淡路線の増便および運賃改定に加え、万博終了後には空港リムジン線と松江出雲線などの復便・増便および三田京都線の新設を行い、堅調に推移

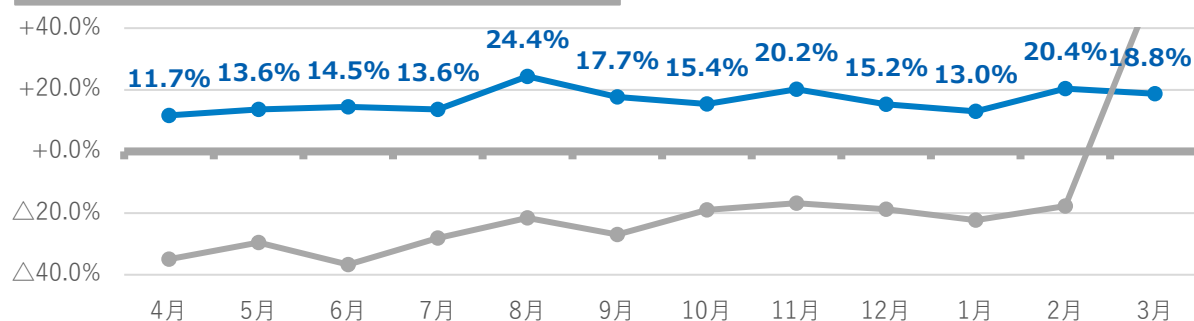
高速バス 方面別利用人員対比  
【対前期（'25/3期）・対コロナ前（'20/3期）】

## 淡路島線

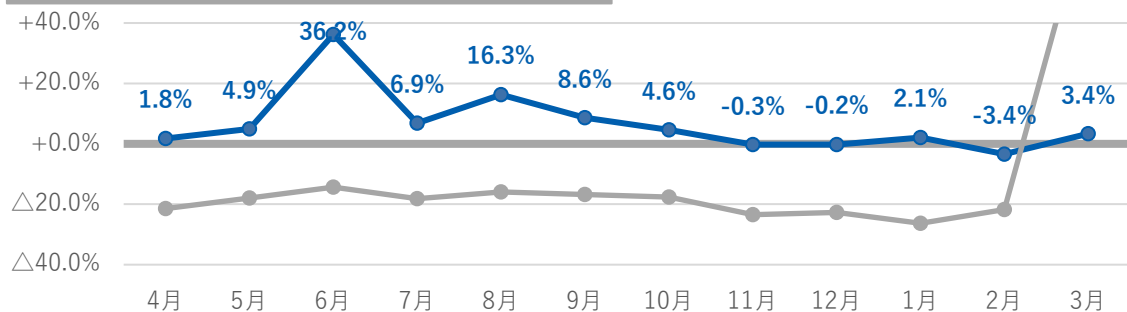
2023年4月より淡路島線の4社共同運行を開始  
（比較は4社共同運行前の人員数を適用）



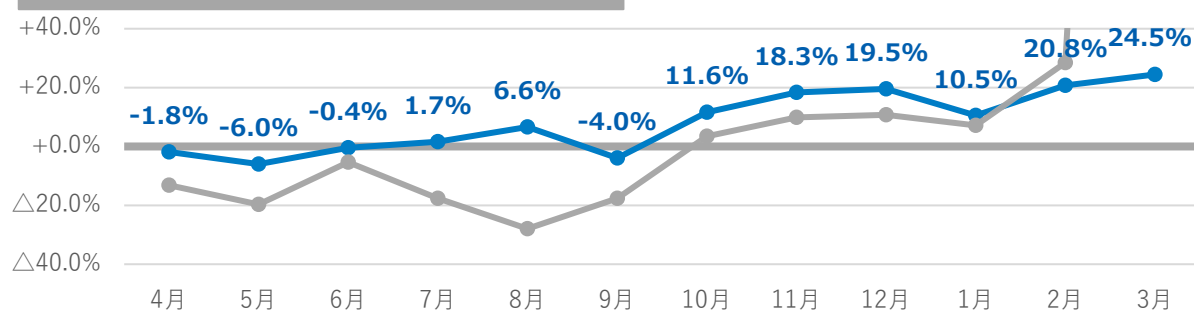
## 四国線・中国線



## 中国ハイウェイ線



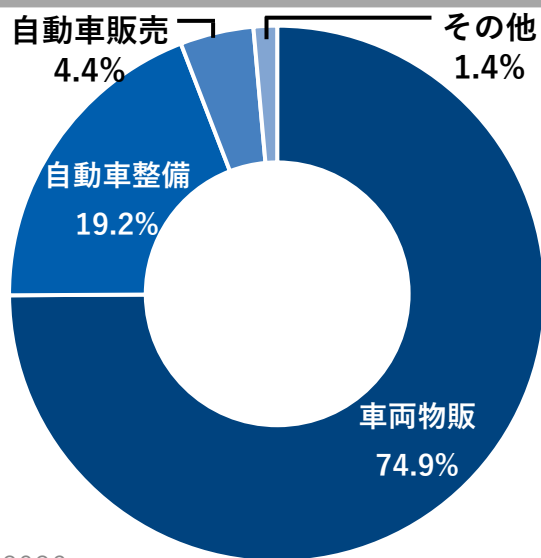
## 空港線・東京線・USJ線・三田京都線



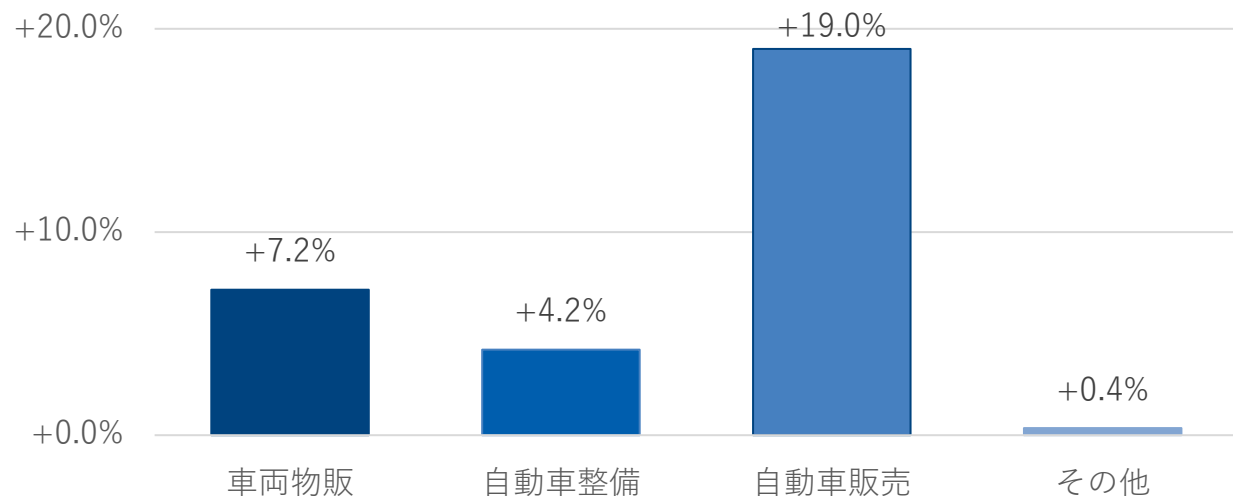
- 車両物販（部品）では、車両使用年数の長期化に伴う整備部品の出荷増や、部品価格の見直しなどにより増収
- 自動車整備は、車検整備台数が増加（前年同期比+1.1%）や、整備に関する工賃単価（レバレート）の見直しなどにより増収
- 車両物販（自動車販売）では、大型バスなどの車両販売が寄与し増収

(百万円)	2026/3期			2025/3期			前年同期比	
	上期	下期	計	上期	下期	計	増減額	増減率
売上高	3,847	4,052	7,899	3,775	3,850	7,626	+273	+3.6%
営業利益	402	547	950	391	483	875	+75	+8.6%

部門別売上高比率（単位：%）



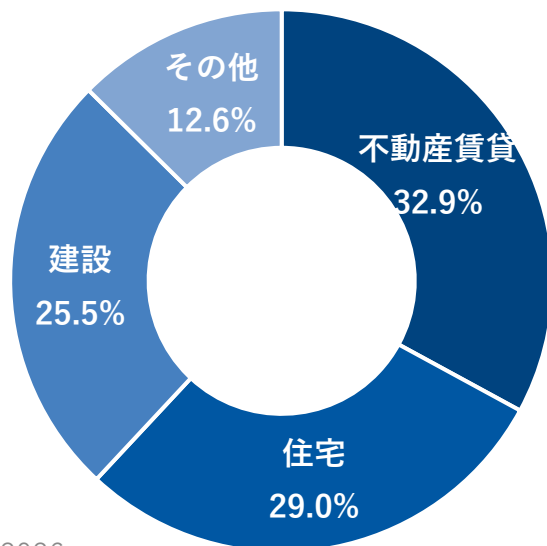
部門別売上高 前年同期比較



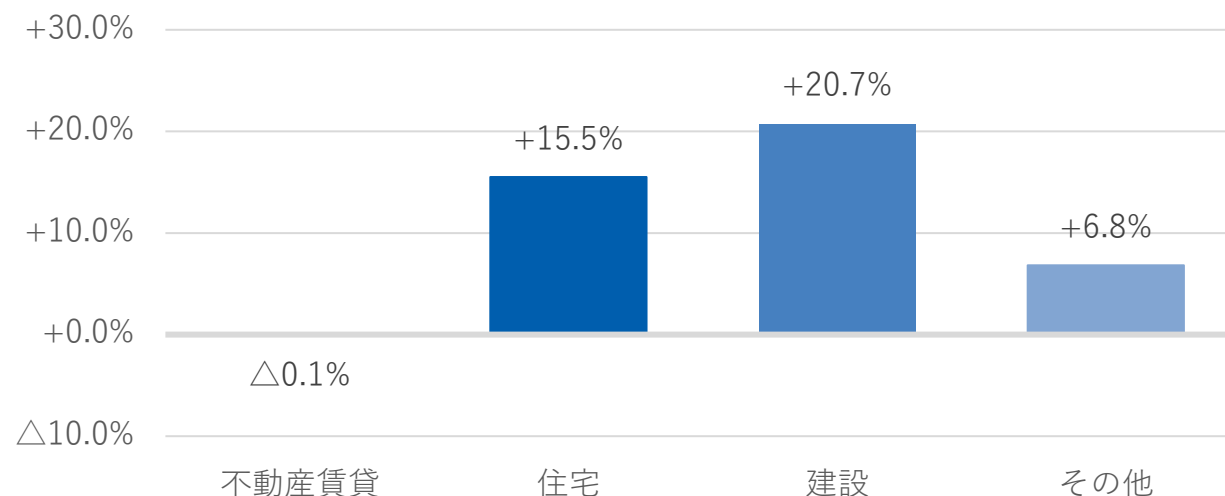
- 賃貸では、2025年1月竣工の学生向けマンション(愛媛県)の増加があったものの、郊外型大型商業施設の改装に伴う一時解約により減収
- 住宅では、注文住宅の引き渡し数が増加したことや中古物件の販売数などが増加したことにより増収
- 建設では、金属系工場（姫路市）や障害者支援施設（姫路市）などの新築工事受注により増収

(百万円)	2026/3期			2025/3期			前年同期比	
	上期	下期	計	上期	下期	計	増減額	増減率
売上高	2,717	2,803	5,520	2,376	3,250	5,627	△107	△1.9%
営業利益	719	688	1,407	673	757	1,430	△23	△1.6%

部門別売上高比率（単位：％）



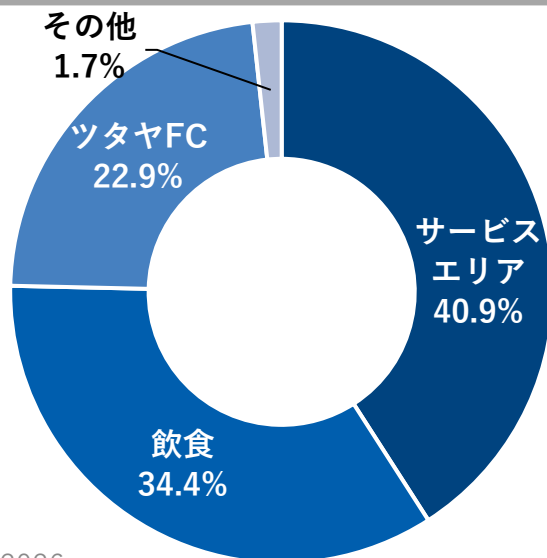
部門別売上高 前年同期比較



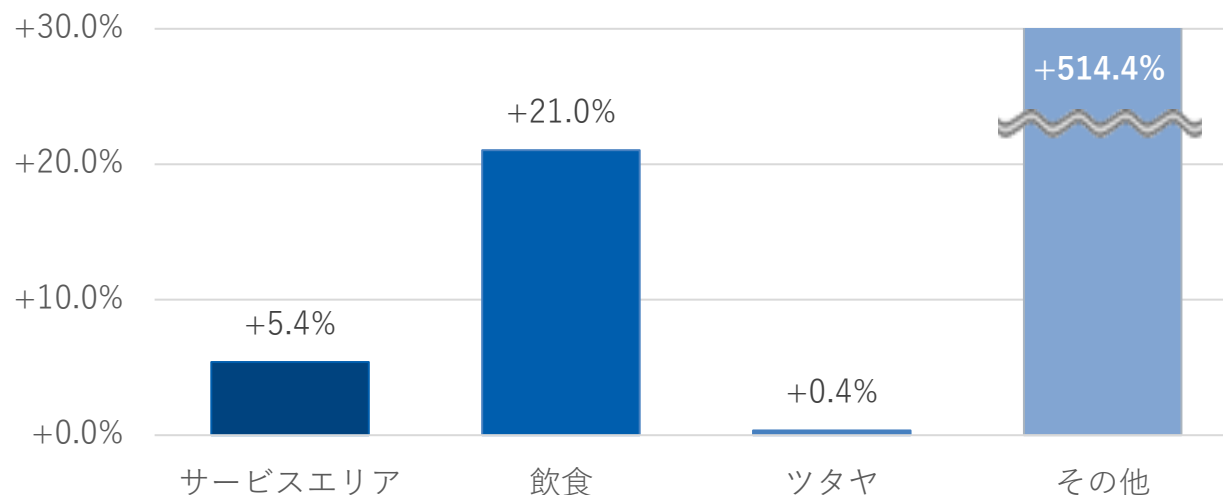
- サービスエリア（SA）事業では、大阪・関西万博への移動需要もあり、来店者数・客単価ともに増加
- 飲食店は、不採算店を閉鎖したものの、4月大阪難波に「豚と炭火。こぶた家」をオープンしたこと、「株式会社与太呂」を新たに連結の範囲に含めたことで増収
- その他は、2025年3月にオープンした「AWAJI EARTH MUSEUM」が通期寄与で増収となったが、立ち上げ期間における費用負担が先行し損失拡大

(百万円)	2026/3期			2025/3期			前年同期比	
	上期	下期	計	上期	下期	計	増減額	増減率
売上高	2,553	2,469	5,022	2,273	2,267	4,540	+482	+10.6
営業利益	△20	△60	△80	△19	△24	△44	△36	-

部門別売上高比率（単位：％）



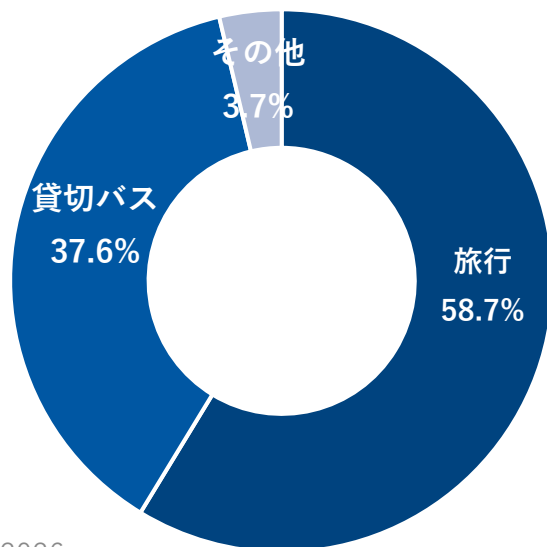
部門別売上高 前年同期比較



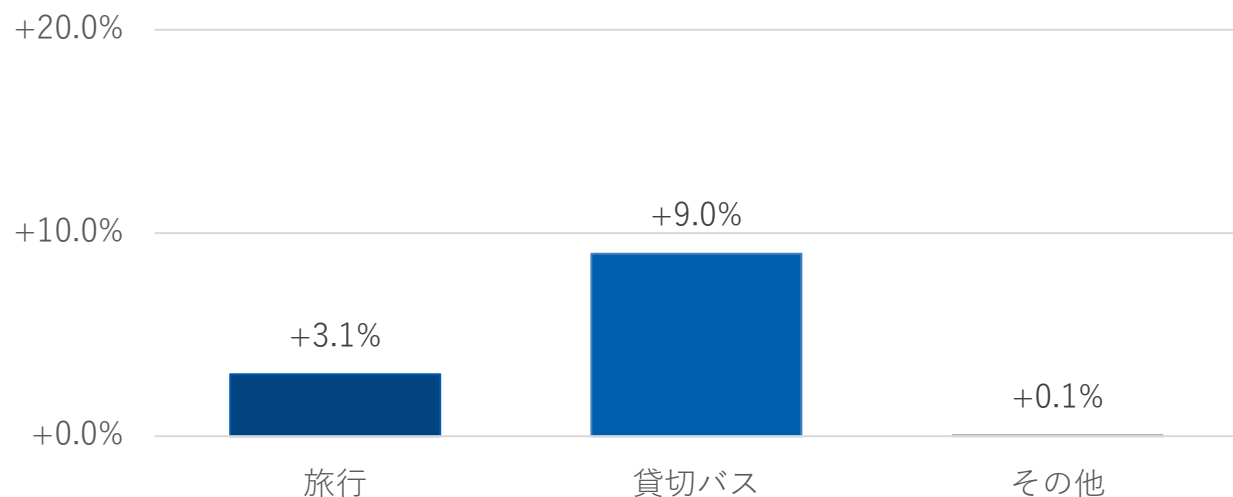
- 旅行は、訪日関係はFIT向け東京・京都の各日帰りツアーが競合で苦戦したが、国内での大阪・関西万博ツアーの集客や団体旅行が好調に推移したことなどにより増収
- 貸切バスは、「大阪・関西万博」シャトルバスの受注や2025年9月に公示された貸切バス新運賃の適用などにより増収

(百万円)	2026/3期			2025/3期			前年同期比	
	上期	下期	計	上期	下期	計	増減額	増減率
売上高	3,331	3,639	6,970	2,992	3,542	6,535	+435	+6.7%
営業利益	△3	27	23	△39	△28	△68	+91	-

部門別売上高比率（単位：％）



部門別売上高 前年同期比較



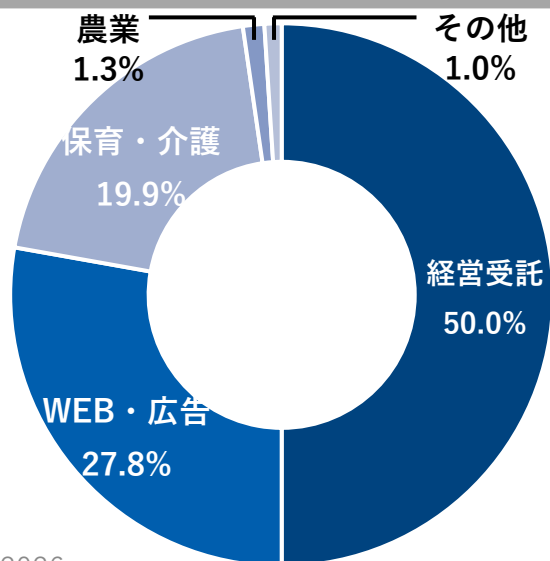
■ 経営受託は、既存施設の指定管理料の増額などにより増収

■ WEB・広告は、制作納品の減少などにより減収、保育・介護は介護施設1施設の閉鎖などにより減収

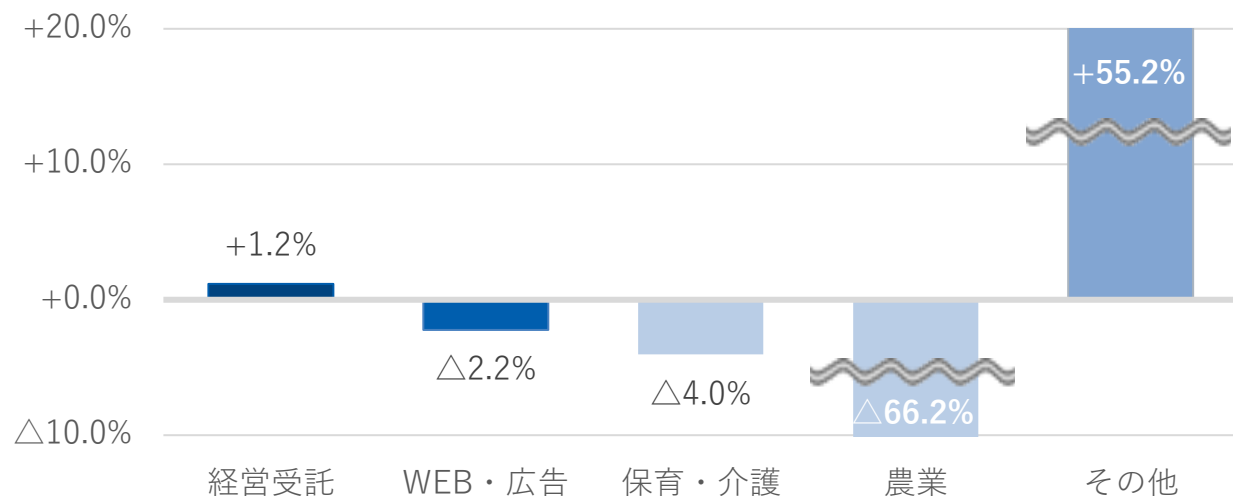
■ 農業は、前期に小売店舗5店舗閉鎖により減収。その他は、地域事業での観光・体験コンテンツ販売数の増加により増収となったが、2026年3月に開業した観光案内拠点「MONZEN」の初期費用を計上したことで損失拡大

(百万円)	2026/3期			2025/3期			前年同期比	
	上期	下期	計	上期	下期	計	増減額	増減率
売上高	2,250	2,325	4,575	2,348	2,350	4,699	△123	△2.6%
営業利益	△45	△126	△171	△69	△32	△102	△69	-

部門別売上高比率（単位：％）



部門別売上高 前年同期比較



# 連結貸借対照表

(単位：百万円)

	2025年3月末	2026年3月末	増減額	主な要因
<b>流動資産</b>	14,364	<b>14,551</b>	+187	
現預金	5,929	<b>5,982</b>	+53	
売掛金	6,358	<b>5,992</b>	△365	債権の回収による減
その他	2,077	<b>2,576</b>	+499	
<b>固定資産</b>	52,709	<b>60,010</b>	+7,300	
有形固定資産	43,655	<b>47,898</b>	+4,243	姫路本社ビル・収益物件・車両取得による増
その他	9,054	<b>12,111</b>	+3,057	
<b>繰延資産</b>	-	<b>2</b>	+2	
<b>資産合計</b>	67,073	<b>74,564</b>	+7,490	
<b>負債</b>	17,610	<b>20,893</b>	+3,282	
有利子負債	3,560	<b>6,399</b>	+2,838	有形固定資産取得による借入増
未払金	3,397	<b>3,868</b>	+471	
その他	10,652	<b>10,624</b>	△27	
<b>純資産</b>	49,463	<b>53,670</b>	+4,207	
<b>負債純資産計</b>	67,073	<b>74,564</b>	+7,490	
<b>※Net Cash</b>	2,368	<b>△416</b>	△2,785	

※Net Cash=期末現預金－期末有利子負債残高

**自己資本比率71.9%**

■ 前年同期と比較して、営業CFは増益により増加するも、投資CFは固定資産の購入により増加し、結果としてFCFは減少

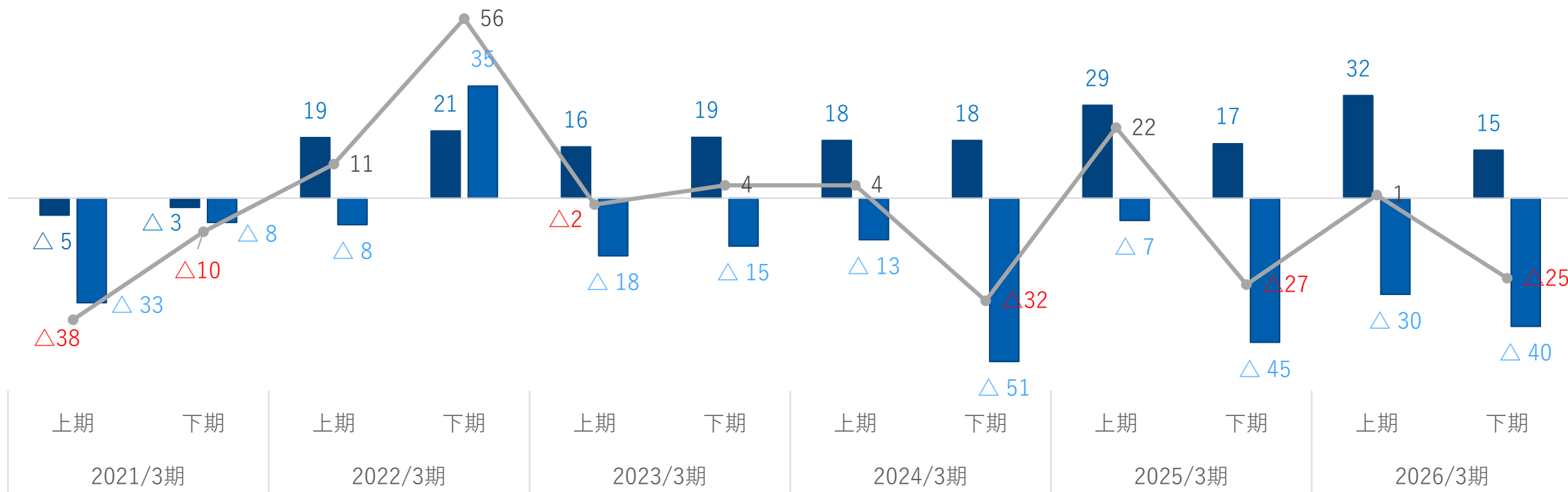
## キャッシュフロー推移

(単位：億円)

■ 営業キャッシュフロー

■ 投資キャッシュフロー

—●— FCF

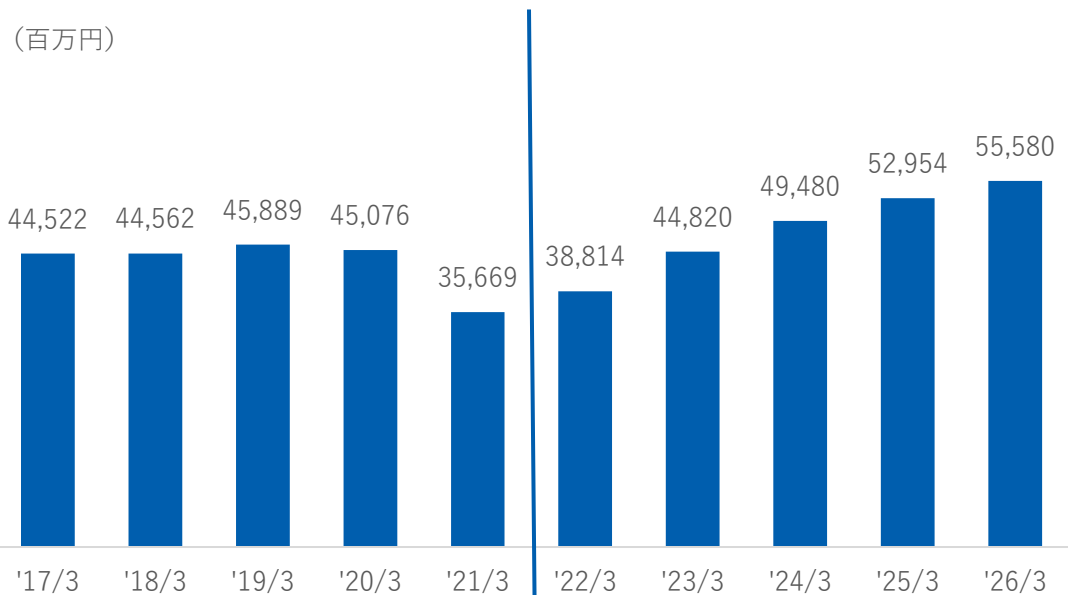


\*FCF=営業キャッシュフロー+投資キャッシュフロー

売上高では、過去最高であった前期実績を上回る550億円超となり、過去最高を更新

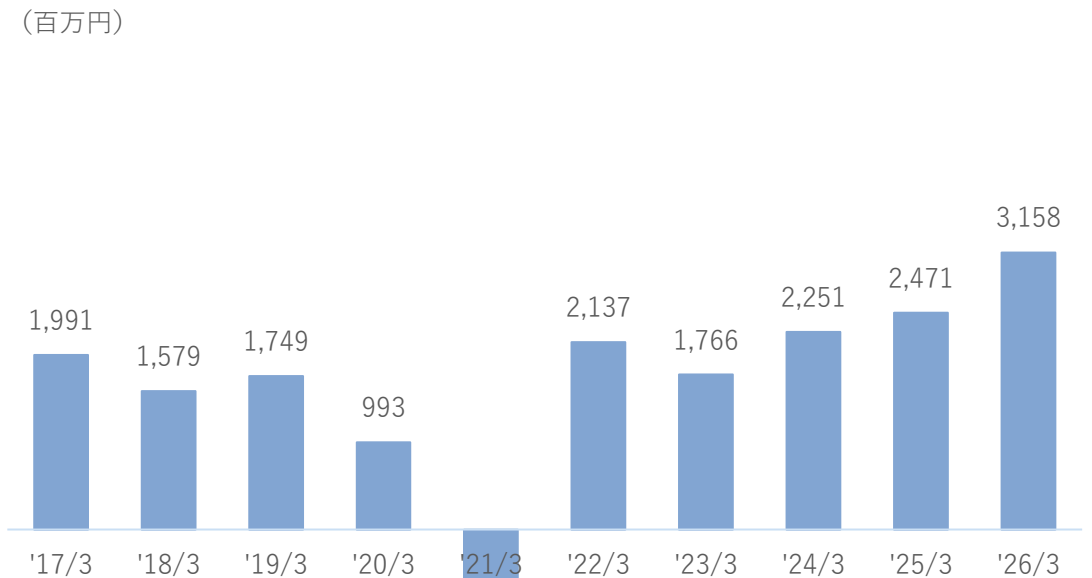
利益では、自動車運送の大幅な増益が寄与し、前期を超える過去最高益を達成

売上高



「収益認識に関する会計基準」を適用  
 '21/3期前は、新たな表示方法による組替えを行っていない。

親会社株主に帰属する当期純利益



△2,167

# 財務ハイライト（連結経営指標の推移）

決算年月	単位	2022/3期	2023/3期	2024/3期	2025/3期	2026/3期
売上高	(百万円)	38,814	44,820	49,480	52,954	<b>55,580</b>
経常利益	(百万円)	1,079	2,622	3,283	3,729	<b>4,434</b>
当期純利益（親会社株主に帰属する）	(百万円)	2,137	1,766	2,251	2,471	<b>3,158</b>
包括利益（親会社株主に帰属する）	(百万円)	2,123	2,102	2,682	2,367	<b>4,551</b>
資本金	(百万円)	3,140	3,140	3,140	3,140	<b>3,140</b>
発行済株式総数	(千株)	6,172	6,172	6,172	6,172	<b>*12,344</b>
純資産額	(百万円)	42,999	44,907	47,392	49,463	<b>53,670</b>
総資産額	(百万円)	58,944	60,627	63,070	67,073	<b>74,564</b>
1株当たり純資産額	(円)	7,137.87	7,458.61	7,865.57	8,201.45	<b>4,438.57(8,877.14)</b>
1株当たり配当額	(円)	35.00	40.00	40.00	60.00	<b>50.00(100.00)</b>
1株当たり当期純利益額	(円)	354.90	293.30	373.72	409.89	<b>261.64(523.27)</b>
自己資本比率	(%)	72.92	74.07	75.14	73.74	<b>71.88</b>
自己資本利益率（ROE）	(%)	5.09	4.02	4.88	5.10	<b>6.13</b>
営業活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	3,949	3,497	3,664	4,704	<b>4,793</b>
投資活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	2,632	△3,315	△6,469	△5,286	<b>△7,165</b>
財務活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	△1,429	△1,364	△1,230	554	<b>2,390</b>
現金及び現金同等物の期末残高	(百万円)	10,968	9,953	5,946	5,919	<b>5,972</b>
従業員数 [外、平均臨時雇用者数]	(人)	3,040 [1,575]	3,271 [1,653]	3,395 [1,861]	3,426 [1,862]	<b>3,543 [1,749]</b>

※2025年10月1日を効力発生日として、普通株式1株につき2株の割合で株式分割を実施。（ ）内は株式分割前の数値を表示。



# 2027年3月期 業績予想

■ 売上高では、大阪・関西万博の反動による自動車運送やレジャーサービス、旅行貸切の減収を見込む一方、不動産での開発案件や旅行貸切のツアー新設といった新たな収入策の取り組みにより、増収を見込む

■ 利益では、ベースアップや人材確保による人件費の増加、バス車両（装備品含む）の更新や自動車整備工場の建替え関連費用などの増加で減益を見込む

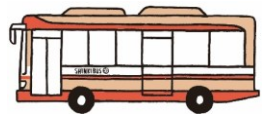
(百万円)	2027年3月期 業績予想	2026年3月期 実績	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	57,000	55,580	+1,420	+2.6%
営業利益	3,300	4,199	△899	△21.4%
経常利益	3,400	4,434	△1,034	△23.3%
売上高経常利益率	6.0%	8.0%	△2.0pt	—
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,200	3,158	△958	△30.3%
1株当たり当期純利益	182.24円	261.64円	△79.4円	△30.3%

※中東情勢の緊迫化に伴う地政学リスクの高まりにより、資源価格の更なる高騰や供給不安定化が懸念されます。現時点では、業績予想に一定程度織り込んでおりますが、情勢の推移によっては業績にさらなる影響を及ぼす可能性があります。

# 連結業績予想（セグメント別）

(百万円)	2027年3月期 業績予想	2026年3月期 実績	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	<b>57,000</b>	<b>55,580</b>	+1,420	+2.6%
自動車運送	25,250	25,783	△533	△2.1%
車両物販・整備	11,400	11,122	+278	+2.5%
不動産	8,870	7,278	+1,592	+21.9%
レジャーサービス	5,280	5,022	+258	+5.1%
旅行貸切	7,570	7,062	+508	+7.2%
その他	4,830	4,651	+179	+3.8%
(調整額)	△6,200	△5,340	△860	—
営業利益	<b>3,300</b>	<b>4,199</b>	△899	△21.4%
自動車運送	1,230	2,124	△894	△42.1%
車両物販・整備	800	950	△150	△15.8%
不動産	1,420	1,407	+13	+0.9%
レジャーサービス	10	△80	+90	—
旅行貸切	30	23	+7	+30.4%
その他	△140	△171	+31	—
(調整額)	△50	△53	+3	—

※各セグメントの売上高及び営業利益（損失）は、セグメント間の内部又は振替高控除前の金額



## 自動車運送

- 路線バス  
三田～新大阪線や三宮～神戸空港線の増強など。
- 高速バス  
大阪・関西万博の反動減はあるものの、大阪～神戸空港線新設などの路線拡充。
- 費用  
社員ベースアップ、バス車両（装備品含む）更新などによる費用増。



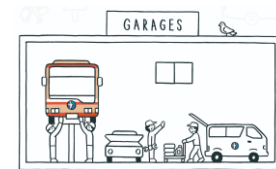
## 不動産

大型建設案件の受注獲得、不動産開発上の計上、2026/3期に取得した賃貸マンションの通年寄与などにより全体で売上が増加。



## 旅行貸切

運転士確保による貸切バス稼働の増、高速バス（東京便）の増便を見込む。東京発着の真結ツアーを開始。インバウンドは周遊バスの販売強化や団体貸切獲得に注力。



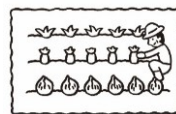
## 車両物販・整備

車両部品の販売拡大などにより売上が増加。  
一方で、社員ベースアップ、主要整備工場の建替え関連費用の増加により減益を見込む。



## レジャーサービス

飲食はオリジナルブランドを新規出店予定。  
TSUTAYAはレンタルに代わる収益源として、物販の更なる拡大。



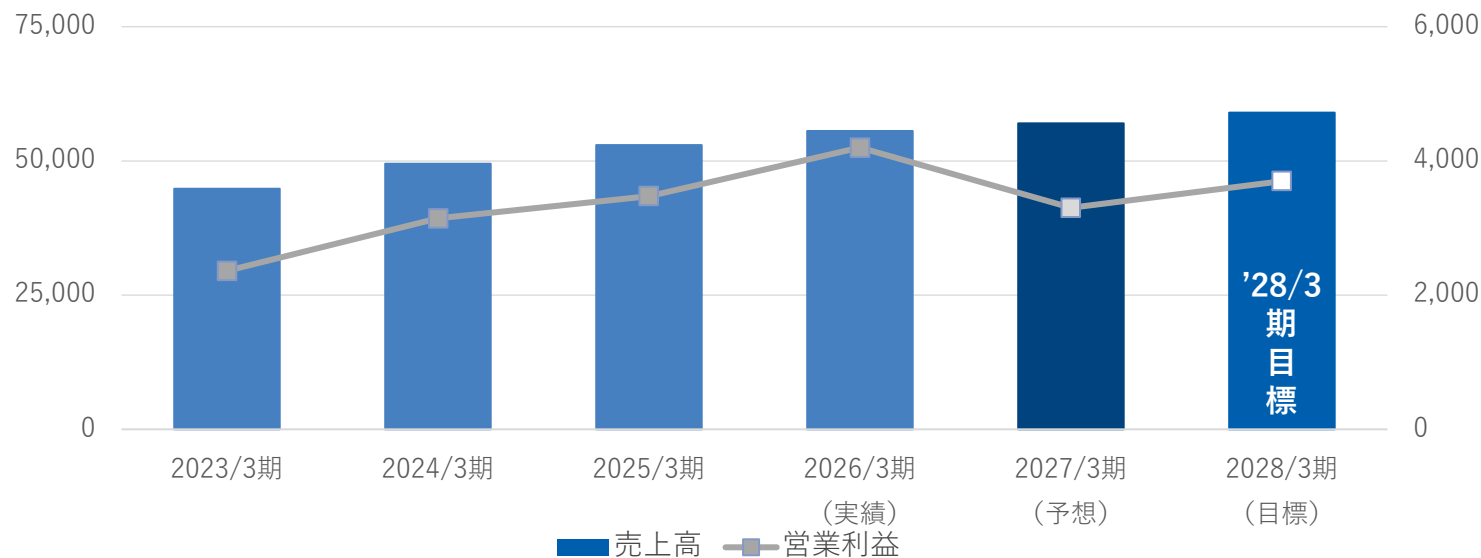
## その他

介護施設の増築による入居者増、介護サービスの利用者増を見込む。  
前期末に開設した体験型複合施設「MONZEN -Himeji Local Gateway」が通年寄与。



# 中期経営計画との比較（連結業績）

(単位：百万円)



**2028年3月期 目標**  
 持続的成長を支える既存事業の強化と  
 成長事業の開拓・拡大

**売上高 590億円**

**営業利益 37億円**

2026年3月期は大阪・関西万博の需要獲得が業績を引き上げた要因となった。  
 2027年3月期は設備投資などによって増収・減益となる見込みだが、中期経営計画の目標達成に向け、計画の取り組みを進める。

(単位：百万円)

	2023/3期 実績	2024/3期 実績	2025/3期 実績
売上高	44,820	49,480	52,954
営業利益	2,362	3,145	3,474
経常利益	2,622	3,283	3,729
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,766	2,251	2,471
経常利益率	5.9%	6.6%	7.0%

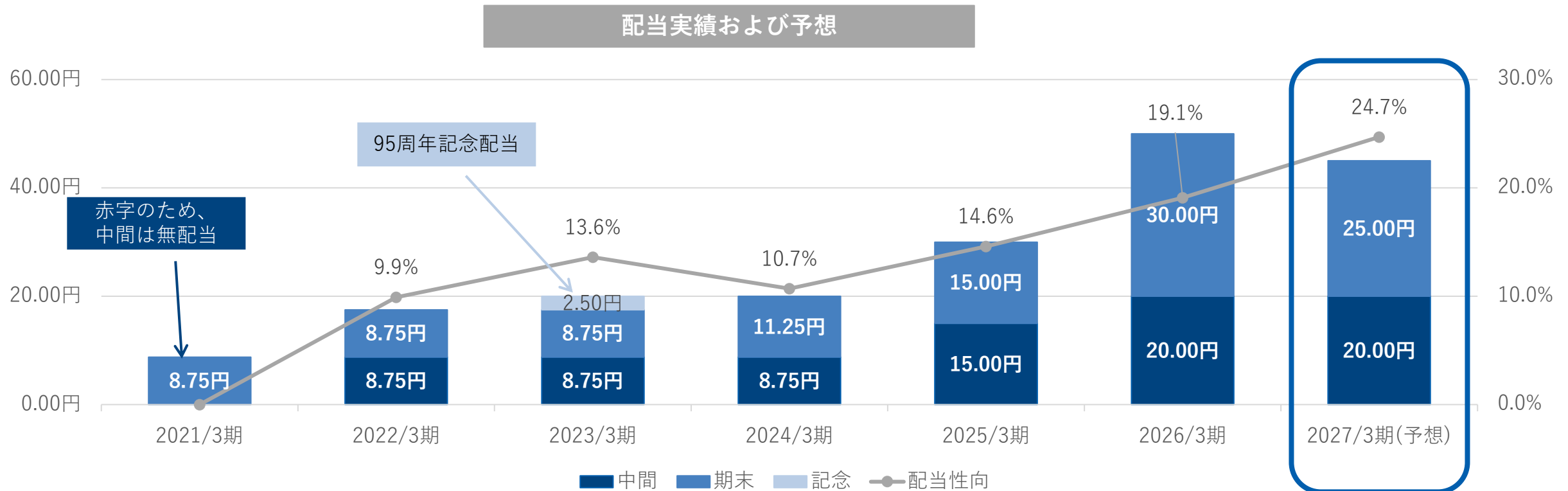
	2026/3期 実績	2027/3期 予想	2028/3期 目標
売上高	55,580	57,000	59,000
営業利益	4,199	3,300	3,700
経常利益	4,434	3,400	3,800
親会社株主に帰属する 当期純利益	3,158	2,200	2,570
経常利益率	8.0%	6.0%	6.4%



# 株主還元

- 2025年10月1日を効力発生日として、普通株式1株につき2株の割合で株式分割を実施
- 期末配当は直近予想から10円増配の1株当たり30円<sup>(注)</sup>とし、分割考慮後では年間1株当たり50円を配当
- 2027年3月期は、業績予想を勘案し5円減配の年間45円配当を予定

(注) 2026年6月24日開催の当社第143回定時株主総会にて決議された場合



※ 1株当たり配当金は株式分割後を考慮した金額を記載



## 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応（アップデート）

## 現状分析

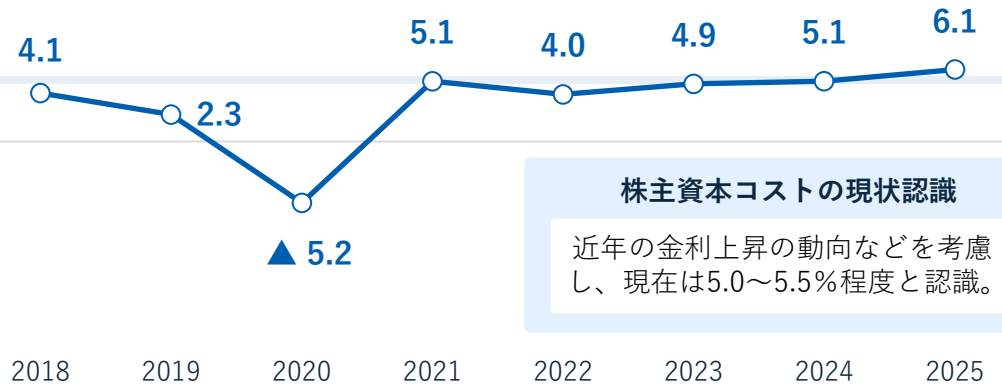
- PBRは依然として0.4倍程度で推移。2026年3月期のROEは6.1%まで改善したが、金利上昇などに伴い株主資本コストも上昇傾向にあるため、更なる資本収益性の向上が必要と認識。
- 2025年10月に株式分割を実施し、株式の流動性向上を図るもPERは依然低位であり、市場からの成長期待醸成が課題。今後は中期経営計画の着実な実行と機動的な成長投資を実行し、持続的な利益成長を目指すとともに、資本市場への説明と対話を強化し、市場評価の向上に努める。

### PBR 恒常的に1倍を下回って推移



※2025年10月1日付で株式分割を実施しており、過年度の数値は株式分割後を考慮した金額にて記載。

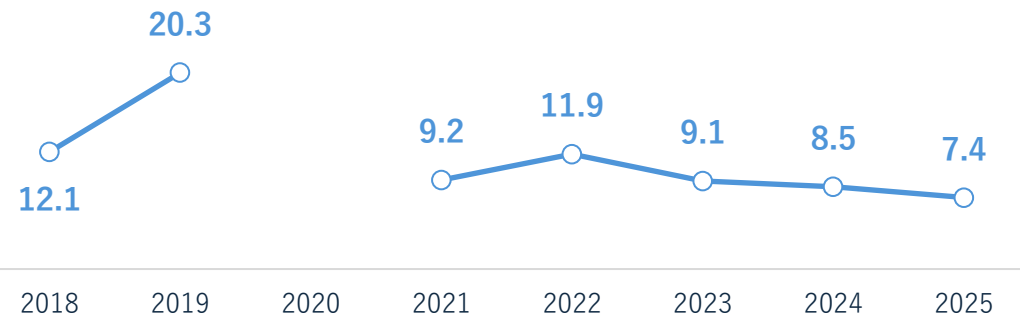
### ROE CAPMベースの株主資本コストと同水準



#### 株主資本コストの現状認識

近年の金利上昇の動向などを考慮し、現在は5.0~5.5%程度と認識。

### PER 成長期待率は低位で推移



## 改善に向けた取組み状況

### 2025年度の取組み

### 今後の取組み

#### 財務戦略



- ・ **最適資本構成の実現、財務レバレッジを活用した成長投資の実行**
  - ・ 不動産投資や神姫バス姫路本社の建設など、レバレッジを活用した戦略的投資を55億円実行（中期経営計画3ヵ年の戦略的投資枠180億円、執行率30.8%）
- ・ **株主還元の充実**
  - ・ 1株当たり年間配当50円（前期比+20円）、配当性向19.1%（前期比+4.5%）

- ・ 財務健全性を維持しつつ、借入余力を資本効率の高い事業、不動産開発、M&Aなどの成長分野へ重点的に配分
- ・ 株主還元は2027年度の配当性向目標30%に向けて段階的に引上げ

#### 事業戦略



- ・ **既存事業の収益力確保、新規事業の創出・育成**
  - 自動車運送
    - ・ 大阪・関西万博における旺盛なアクセス需要を的確に捉え、増便などの機動的な運行体制を構築、最大限の輸送力を投入
    - ・ 万博終了後の輸送力を活かし、三田～京都線の新設、神戸空港～有馬温泉線の増便など、神戸大阪エリアを中心に積極的に路線拡大
  - 不動産
    - ・ 収益基盤の安定化に向けた不動産関連投資を実行
    - ・ 不動産開発事業への投資を実行
  - 旅行貸切
    - ・ 万博需要獲得に向け、団体旅行営業強化とツアー商品拡充を実施
    - ・ 貸切バスは受注単価向上とインバウンド需要獲得に注力
    - ・ 乗合高速バス(東京便)は系統増・販売体制強化によりシェア獲得を推進

- ・ 中期経営計画の着実な実行を通じて、既存事業の収益力を維持・強化
- ・ 不動産開発は将来の成長分野と位置づけ、案件の具体化と事業化を着実に推進

#### 非財務戦略



- ・ **IR活動の充実、投資家との対話の強化**
  - ・ 機関投資家向けの決算説明会を初めて開催（2026年3月期中間決算説明会）
  - ・ 投資家などとの個別面談を実施
  - ・ 当社ウェブサイトの全面リニューアルにより、企業・IR情報の発信を強化
- ・ **株式の流動性向上策の実行**
  - ・ 投資家層の拡大と株式の流動性向上を目的とした株式分割を実施(2025年10月1日)

- ・ IR活動を強化するとともに、資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた取り組みの進捗を継続的に公表
- ・ 投資家との対話を継続し、対話を通じて得られた意見を踏まえ改善施策を実行

## < 免責事項 >

---

当資料に記載されている内容のうち、過去の事実以外のものは、いくつかの前提に基づいた見通しであり、将来の計画数値や施策の実現を確約したり保証したりするものではありません。

問い合わせ先  
総務部 広報IR課  
079-223-1241 (代表)  
ir@shinkibus.co.jp